

早稲田大学 文化構想学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、現古漢1問)
難易度	昨年より難化

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「日本文化と自然」について。

出典：A：九鬼周造『日本の性格について』、B：相良亨『「おのずから」としての自然』。

〔本文字数：約4900字＝昨年より約2300字増加。設問数：8＝昨年と同じ。〕

小問	難易度	コメント
問一	やや難	〔空欄補充〕直前の「形式」の対義語。なお、「質料」は「形相」とともにXの内実となるので誤り。
問二	易	〔空欄補充〕「儒教」的なものを表した語句。2段落前にある。
問三	標準	〔傍線部理解〕傍線1の直後の「自己の無力が諦められる」がヒントとなっている。
問四	標準	〔傍線部理解〕「諦念」すなわち「あきらめ」が基礎となったものを探す。
問五	やや難	〔傍線部説明〕「無力」と「超力」がそれぞれ何を指すか。また、その両者が「唯一不二」すなわち「一体」となっている、という選択肢を選ぶ。
問六	易	〔空欄補充〕「森」で始まり、「天地万物」と同義の四字熟語。
問七	標準	〔語句の意味〕辞書の意味からはずれているものは正解にはならないことに注意。
問八	標準	〔内容合致〕イ…「逃避的死生観」、ロ…「対立的」、ハ…「理想主義的」、ホ…「拒絶する」がそれぞれ誤り。

(二) 評論文。「狩猟民と自然」について。出典：日野啓三『書くことの秘儀』。

〔本文字数：約2700字＝昨年より約200字減少。設問数：7＝昨年より1問減少。〕

問九	やや難	〔傍線部説明〕「表現の特質」という設問の語句に注意。ロは「はっきり理解した」が本文3～4行に反する。
問十	標準	〔傍線部理解〕ハが紛らわしいが、「人間をふくん」でいる点が誤り。
問十一	やや易	〔傍線部説明〕傍線Cが直前の「そう」を受けていることから、Cの内容は直前の段落で説明されていると判断できる。
問十二	易	〔空欄補充〕空欄aの直前の「それ」という指示語は、「普通」がまずあって、運よく「成功」をに入れる」という考え方を指しており、狩猟民の考え方とは異なる。
問十三	やや難	〔傍線部説明〕傍線部Dの6行後には「連関」という語はあるが、その段落では「世界」の説明がない。
問十四	やや難	〔内容合致〕イ…「生き物の殺傷行為をつぐなう」、ホ…「動物たち…」以下が誤り。二の判断が難しいが、本文の趣旨は「美術」ではなく「生きること」そのものであったという点にある。
問十五	やや易	〔漢字書き取り〕文脈から意味を判断する。2が「驚異」と紛らわしい。

(三) 古文。現古漢融合文。出典：『古今和歌集』仮名序、吉川幸次郎『東洋の文学』。

(本文字数：合計約 3000 字 = 昨年より約 500 字増加。設問数：9 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問十六	易	【文法問題】「り」の識別。完了・存続の「り」を選べばよい。
問十七	やや易	【修辞法】枕詞の問題。頻出の枕詞を覚えているかどうか。
問十八	易	【内容合致】紛らわしい選択肢もなく容易。
問十九	やや易	【空欄補充】引用文の直前の一文「また神の……答えている。」から考える。
問二十	標準	【句形】仮定形「如……」を把握しているかどうか。
問二十一	標準	【文学史】漢詩の文学史の問題。
問二十二	やや難	【空欄補充】ロがやや紛らわしいが、空欄gの1行前と3、4行後から判断する。
問二十三	易	【文脈把握】一つ前の段落の内容から考えれば容易。
問二十四	やや易	【空欄補充】7ページの6、7行目などから容易に判断できる。

### 〔総合コメント・今後の指針〕

昨年と同様の出題形式だが、大問一の字数が倍増したため、昨年以上に時間に追われた受験生が多かったであろう。文化構想学部の国語の試験は、時間との闘いといえるかもしれない。意外に時間のかかる大問一は後回しにし、先に大問二と大問三を解いてしまうのが得策であろう。

また、すべての文章が「自然」に関わる文章であった。とくに大問一と大問二の自然観の話は、多くの高校の教科書や予備校のテキストで取り上げられている頻出テーマの一つ。本校でも、『早大現代文 PART 』の(三)、『ハイレベル現代文 / 早大難関大現代文 PART 』の(三)、などで類似のテーマを扱った。

大問一は、「日本文化と自然」をテーマにした評論文。昨年と同様、現代評論と文語文がセットで出題された。設問では、両者の対応をおさえて解く問四に時間をとられた受験生が多かったであろう。

大問二は、「狩猟民と自然」についての随筆。本文内容はそれほど難しくないが、問九、問十四、は紛らわしい選択肢があり難しい。

大問三は、古文と現古漢融合文。古文は、ほとんどの高校の教科書に取り上げられている『古今和歌集』の仮名序からの出題。現古漢融合文は、昨年と同様に、現代文と古文・漢文との対応をおさえて解く設問はあまりなく、純粋な古文・漢文の読解力や知識が問われる設問が多かった。問十七の枕詞の設問も落とさないようにしたい。現古漢融合文が出題されるからといって油断することなく、古文と漢文の学習をすすめてもらいたい。